

令和5年度 第1回 中部地方整備局事業評価監視委員会 再評価（一括審議）案件一覧

資料5

番号	事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト削減や代替案等の可能性	事業の投資効率性 上段:前回評価時 下段:現時点	都道府県・政令市 等の意見	
1	国道258号 大桑道路	自 岐阜県大垣市楽田町 至 三重県桑名市大字小貝須字柳原	S40年度事業化 S40年度用地着手 S40年度工事着手	310 310	・地元情勢の変化等事業を 巡る社会経済情勢等に大き な変化が見られない	用地進捗率 約99% 事業進捗率 約87% (令和5年 3月末時点) 岐阜県大垣市楽田町 ～岐阜県養老郡養老町大巻 L=15.4km 昭和57年度～平成20年度開通(4/4) 岐阜県養老郡養老町大巻 ～岐阜県海津市南濃町大字安江 L=7.4km 昭和46年度開通(2/4) 岐阜県海津市南濃町大字安江 ～岐阜県海津市南濃町大字安江 L=0.3km 昭和46年度開通(4/4) 岐阜県海津市南濃町大字安江 ～三重県桑名市多度町柚井 L=5.3km 昭和46年度開通(2/4) 三重県桑名市多度町柚井 ～三重県桑名市大字小貝須字柳原 L=13.2km 昭和55年度～平成27年度開通(4/4)	・令和5年度は以下内容を実施 【養老郡養老町大巻～桑名市多度町柚井】 ・調査推進: 調査設計	・大桑道路では現道拡幅工事の 為、車面にレーザー測量機を取り付 け、現道を走行しながら3次元点群 データを作成するMMS(モバイル マッピングシステム)測量を活用して いる。測量作業自体の効率化と3次 元点群データから作成したBIM/CIM モデルを元に土工数量を自動算出 し、作業時間の短縮を図っている。 ・今後も、技術の進展に伴う新工法 の採用等による新たなコスト削減に 努めながら事業を推進する。	【事業全体】 総便益B:2,371億円 総費用C:1,120億円 B/C=2.1 【事業全体】 総便益B:3,982億円 総費用C:1,221億円 B/C=3.3 【残事業】 総便益B:542億円 総費用C:103億円 B/C=5.3 【残事業】 総便益B:399億円 総費用C:86億円 B/C=4.6	・将来OD表の変更(H22センサス→H27センサス)に 伴い計画交通量が減少 ・費用便益分析マニュアル改訂に伴い、各便益の原 単位、走行台キロの年次伸び率が変更 ・今回評価より、部分供用による便益を新たに計上	継続
2	国道41号 名濃バイパス	自 愛知県小牧市村中 至 愛知県犬山市五郎丸	H25年度事業化 H26年度工事着手	135 148	・地元情勢の変化等事業を 巡る社会経済情勢等に大き な変化が見られない	用地進捗率 100% 事業進捗率 約93% (令和5年 3月末時点) 愛知県小牧市村中～愛知県丹羽郡 扶桑町高雄 L=5.6km 平成29年度～令和4年度開通(6/6)	・令和5年度は以下内容を実施 【丹羽郡扶桑町高雄～犬山市五郎丸】 ・調査推進: 調査設計(協議用資料作成等) ・工事推進: 扶桑地区ほか改良工 扶桑地区ほか舗装工 丹羽郡扶桑町高雄～犬山市五郎丸 L=1.4km(6/6) 令和5年度開通予定	・名濃バイパスでは、舗装工事(下 層・上層路盤)において、位置計測 装置(GPS等)による転圧管理シス テムを活用し、締固め機械の走行 軌跡を表示・計測する事で、現場密 度試験の省略が可能となり、作業 時間の短縮・省力化を図っている。 ・今後も、技術の進展に伴う新工法 の採用等による新たなコスト削減に 努めながら事業を推進する。	【事業全体】 総便益B:361億円 総費用C:153億円 B/C=2.4 【事業全体】 総便益B:467億円 総費用C:198億円 B/C=2.4 【残事業】 総便益B:361億円 総費用C:83億円 B/C=4.4 【残事業】 総便益B:58億円 総費用C:19億円 B/C=3.0	・将来OD表の変更(H22センサス→H27センサス)に 伴い計画交通量が減少 ・費用便益分析マニュアル改訂に伴い、各便益の原 単位、走行台キロの年次伸び率が変更 ・今回評価より、部分供用による便益を新たに計上	継続

3	国道23号 岡崎バイパス	自 愛知県額田郡幸田町芦谷 至 愛知県西尾市南中根町	S55、S62年度事業化 S55年度用地着手 S61年度工事着手	1,040 1,040	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率 100% 事業進捗率 約81% (令和5年 3月末時点) 幸田芦屋IC～安城西尾IC L=14.6km 昭和62年度～平成18年度開通(2/4) 西尾東IC～安城西尾IC L=5.5km 平成24年度～平成27年度開通(4/4)	・令和5年度は以下内容を実施【幸田芦谷IC～西尾東IC】 ・調査推進： 用地調査、 調査設計(協議用資料作成等) ・用地買収推進： 上六粟地区用地買収	・3次元モデル(BIM/CIM)を構築・活用することで、事業効率化・高度化を図っていく。 ・蒲郡バイパスでは、レーザー測量により取得した現況地形と3次元の設計データを重ね合わせる事で、施工時のイメージを技能者やオペレータとも共有する事で、手戻りの無い施工計画の立案に活用し、工期の短縮に寄与している。 ・今後も、技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。	【事業全体】 総便益B: 61,213億円 総費用C: 11,574億円 B/C=5.3	【残事業】 総便益B: 7,921億円 総費用C: 986億円 B/C=8.0	継続
	国道23号 蒲郡バイパス	自 愛知県豊川市為当町 至 愛知県額田郡幸田町芦谷	H9、H19年度事業化 H15年度用地着手 H18年度工事着手	1,467 1,537	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率 約99% 事業進捗率 約71% (令和5年 3月末時点) 蒲郡IC～幸田芦屋IC L=5.9km 平成25年度開通(2/4) 豊川為当IC～蒲郡IC L=9.1km(2/4) 令和6年度開通予定 (大規模切土工事が順調に進んだ場合)	・令和5年度は以下内容を実施【豊川為当IC～蒲郡IC】 ・調査推進： 環境調査、水文調査、 調査設計(協議用資料作成等) ・用地買収推進： 清田地区用地買収 為当地区ほか移転補償 ・工事推進： 金野地区ほか改良工 広石第1橋ほか上部工 五井トンネルほかトンネル設備工 清田地区ほか舗装工		(事業区間を岡崎バイパスとして算出した場合) 【事業全体】 B/C=8.6 【残事業】 B/C=9.0 (事業区間を蒲郡バイパスとして算出した場合) 【事業全体】 B/C=2.8 【残事業】 B/C=9.4 (事業区間を豊橋バイパスとして算出した場合) 【事業全体】 B/C=5.1 【残事業】 B/C=8.3	継続	
	国道23号 豊橋バイパス	自 愛知県豊橋市野依町 至 愛知県豊川市為当町	S48、H元年度事業化 S50年度用地着手 S55年度工事着手	1,707 1,707	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率 100% 事業進捗率 約85% (令和5年 3月末時点) 野依IC～豊川為当IC L=17.6km 昭和57年度～平成24年度開通(2/4) 大崎IC～前芝IC L=9.4km 平成25年度開通(4/4)	・令和5年度は以下内容を実施【野依IC～大崎IC】 橋梁上部工事着手 ・調査推進： 水文調査、 調査設計(協議用資料作成等) ・工事推進： 大清水高架橋下部工 大清水高架橋上部工		費用対効果分析に係る項目は、令和4年評価時点	継続	
	国道23号 豊橋東バイパス	自 愛知県豊橋市東細谷町 至 愛知県豊橋市野依町	H4年度事業化 H7年度用地着手 H14年度工事着手	489 489	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率 100% 事業進捗率 約91% (令和5年 3月末時点) 豊橋東IC～野依IC L=9.2km 平成18年度～平成25年度開通(2/4)	・令和5年度は以下内容を実施【豊橋東IC～野依IC】 ・調査推進： 調査設計(協議用資料作成等)		継続		